

生物工場事業計画

シャッター通り活性化と高齢者社会に向けた、ビジネスモデルの実現

閉鎖循環式複合養殖と霧化式水耕栽培

1・目的と意義(1)

大店舗法の改正や高齢化等の社会変化によって地域の生活を支えてきた商店街から客が遠のき、多くの商店や事務所が閉鎖し“シャッター通り”と呼ばれるようになった。

このような“シャッター通り”は全国に広がり、社会問題化しており、商店街の復活を目指し多くの取り組みが行われています。平成21年度中小企業庁委託『商店街実態調査報告書』によると、全国の商店街の数は、14,467箇所（平均店舗数51.7店舗）あり人口密集地から離れるに従い閉鎖店舗数が目立つ商店街が多くなる傾向にあります。

この閉鎖された店舗を活用することで商店街の活性化を支援したい。

国際養殖産業会（JIFAS）は発足以来、陸上養殖の技術向上と実用化に貢献して参りました。その実績を“シャッター通り”で閉鎖された店舗を活用し商店街の活性化を図る一方法として陸上養殖を活用した新しいビジネスモデルを実用化することにしました。

さらに、魚介類だけでなく水耕栽培もという多くの要望に応じて、JIFAS 水耕栽培検討委員会は、ソニーが開発した霧化式水耕栽培を採用することに決定しました。

本システムは、眞島 修氏がソニー研究所時代に作成したもので、多くの優れた技術が結集しています。

高齢化が急速に進展している日本社会への提案として、このビジネスモデルの担い手として“元気な高齢者”に対するアプローチも対象として考えています。

